

平成30年度 明石市議会生活文化常任委員会 議会報告会実施報告書

開催日時	平成30年11月5日（月）13時30分～15時00分	
開催場所	商工会議所6階集会室	
テーマ	動物愛護について	
出席議員	委員長	辰巳浩司
	司会者	辻本達也
	記録者	深山昌明
	その他	国出拓志 宮坂祐太 北川貴則 坂口光男（以上、生活文化常任委員会委員） 寺井吉広（活性化推進委員）
参加人数	動物と共生するまちづくりの会（3名）明石市獣医師会（2名）東播開業獣医師会明石地区（2名）明石ハウス自治会（2名）西明石南自治会（2名）	
傍聴人数	5名	
報告内容	<p>○動物愛護に関する生活文化常任委員会での審議経過報告（宮坂委員）</p> <p>○神奈川県川崎市への行政視察報告（北川委員）</p>	
主な意見・提言と応答	<p>○意見交換</p> <p>①地域猫活動について</p> <p>動物と共生するまちづくりの会： 地域猫を管理しているボランティアは、近所の人に白い目で見られるため朝早くや夜遅くにしか餌をやれないのが現状。活動を応援するために、市のほうで腕章・タスキなど地域猫活動として行っていることが示せるものを早急に手配して頂きたい。</p> <p>辰巳委員長： 直ちに実施できるか分からないが、議会としてしっかりと議論し対応していきたい。</p> <p>東播開業獣医師会： 猫を好きな人がいれば、嫌いな人もいる。ご近所同士のトラブルは避けたいが、嫌いな人も明石市民なのだから、そういう人の存在も念頭に置いて議会にも対処いただきたい。</p> <p>明石市獣医師会： 不妊・去勢手術に対する明石市の補助金制度は素晴らしいし、獣医師会とボランティア団体もいい関係を構築しているので、行政と議会に感謝している。</p> <p>先ほど腕章の話と猫を嫌いな人の話が出たが、市が地域猫活動をしている方に腕章等を交付することで、市が認知しているというお墨付きになるので、猫が嫌いな人にとっても安心感につながり、いい解決になると思う。</p> <p>西明石南町自治会： 地域猫活動について住民が知らなすぎるので、市にもっとアピールしてほしい。</p> <p>東播開業獣医師会： ただ、アピールの際に、市が猫を飼っているというだけの印象にならないよう、地域猫活動は地域猫をこれ以上増やさず、ゼロにしていく過程の活動であると前面に出さなければいけない。</p>	

辰巳委員長： 4月にあかし動物センターが開所したが、動物愛護は市全体にはまだまだ普及していないのが現実。議会も行政もボランティアの方も一緒になっていい方向を目指していきたい。

明石ハウス自治会： 一般市民が地域猫に感心を持つには、どうしたら良いのか議会として考えてほしい。また、猫にも人間の命と同じ重さがあるということ、猫の幸せということ、生命の尊厳というもの、これらを子どもたちにどう教育していくかについても検討してほしい。

動物と共生するまちづくりの会： 地域猫活動をするにあたり、始めに地域の方々に説明をする際に市にも協力してもらいたい。これは猫と仲良くする活動ではなく、市の施策として猫と共生しながら外の猫を減らしていく施策なのだとすることを誤解のないようわかっていたかかないといけない。小学校区を一つモデル地域とし、そこが成功すれば他の地域も手を挙げてもらえるし、やはり広域的に手術することが成功につながると思う。

辻本委員： 地域猫活動は、まさに猫を増やさないための取り組みであって、地域の猫で嫌な思いをしている人のためにもなる活動だということを市として市民の皆さんに広く知ってもらえるようしっかり PR しなければならない。

坂口委員： 視察にも行ってきたが、我々も議員でありながら野良猫の認識が甘かった。人間と共生していくためには、きちんと個体管理しながら進める必要があるので、これから行政が啓発活動等を含めてやっていかなければいけない。

明石市獣医師会： 設備費から飼育舎の修理費を出さないといけませんが、動物まで回らないのが現状なので、その予算についても考えてほしい。土日祝日の動物の世話の委託についても、予算等厳しい面はあるが検討してもらいたい。

辰巳委員長： 動物センターの開設を機に動物センターと教育委員会との連携も必要になってくるし、子どもの頃から動物と触れ合うことはすごく大事なことだと思っているので、議会としてもそのあたりを研究しながら、教育部門と環境部門にまた提案していきたい。

動物と共生するまちづくりの会： 動物センター主導で、自治会長などに対して地域猫の説明を行ってほしい。行政とボランティア、自治会長やまちづくりの会と一緒に話をする場所を持ちたいとずっとお願いをしているが、未だに実現していない。

西明石南町自治会： 地域猫活動をめぐってご近所とトラブルになったときに、動物センターから職員が仲裁に来たが、きちんと相手方に説明をしてくれたのかが気になる。自分でもご近所に説明はしているが、行政からもそういうときにもっと説明してもらえたら助かる。

辻本委員： もっと広く知ってもらい、理解してもらいということが大事。

国出副委員長： それぞれの地域活動を展開している人たちの活動についてあまりにも理解がない。私の家にも捕獲器を置いて頂いているが、ボランティアの方は本当

に昼夜を問わず人知れず献身的に命を救う活動をしている。議会としても個人としても、もっと皆さんの活動を訴えていかなければいけない。

明石ハウス自治会： 私は子どもたちとよく利用する公園に野良猫が多く、スーパーのごみ箱を漁っている状況を見て、子どもを持つ親として見過ごす大人になりたくないという思いから地域猫活動を始めた。役員と話をするなかで、高齢の方は「たかが犬や猫やないか」という発想が非常に多い印象を受ける。まちづくりに関する助成金を減点方式ではなく加点方式にして、地域猫活動も加点対象だと認めてもらえれば、そういった世代の役員の方に身をもって知ってもらえると思う。

また、これからはボランティアについての子どもへの教育にも取り組むべき。

動物と共生するまちづくりの会： 猫のトイレの問題も大事である。公園の砂場などはネットをかけることで防護できるが、子どもが遊ぶときにかけたり外したりの手間がかかる。やはり市民の理解を得ないと難しいところがあるので、行政、議員、ボランティアと一緒に頑張っていけないといけないと思う。

②動物センターのあり方について

動物と共生するまちづくりの会： 子どもたちに命の教育をするには動物愛護センターは最高の場所であると思う。実際に命がいるその場所で、親子の会話や職員との会話によって子どもたちが命について考えられる施設になるよう、土日開館など市民に開かれたセンター、ボランティア団体がいっしょになって啓発できるセンターになってほしい。人数が足りないのであれば、議員さんも応援して、職員数を増やしてあげてほしい。

明石ハウス自治会： 動物センターの土日開館について、人手不足なら子どもを持つお母さんのボランティアの力を借りるのがいいと思う。センターに来た子どもや、ボランティア同士でも面倒を見合って子どもに目が行き届く。「子どもを持つお母さんにがんばってほしい、命の大切さを知ってほしい、やさしいまち明石」というようなキャッチコピーはどうか。また、そういったお母さんのセンターを借りて譲渡会をしたいという申し出に応じて、部屋を貸し出してくれるとありがたい。

明石市獣医師会： 「殺処分ゼロ」というより「譲渡率100%を目指す」という表現の方がイメージはいいと思う。「殺」というのはあまりにも強烈的な印象がある。

明石市市議会議長 穂原 成人 様

平成30年12月3日

上記のとおり報告します。

常任委員長 辰巳 浩司